

他人の意見に流される必要はありません。
今の自分の気持ちを中心に。



水谷香菜さん(1996年生まれ)

椋山女学園高校 出身
愛知学院大学 心身科学部卒業

愛知県警察本部

名古屋市中区三の丸 2-1-1
<https://www.pref.aichi.jp/police/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校を卒業→大学へ進学→警察官採用試験に合格
→警察学校に入校→交番勤務を経験→交通課に配属

——学生時代

「バスケットボール部に所属し、部活中心の高校生活でした。強豪校ではありませんでしたが、練習も毎日あったので、部活を通してメンタルを鍛えられたと思います。高校卒業後、愛知学院大学に進学しました」

——大学時代について教えてください。

「運動学やスポーツ心理学、筋肉や身体の仕組みなど、健康や運動に関連した講義が中心でした。大学ではラクロス部に入り、他大学と協力してリーグ運営もしました。同年代の様々な学生と関わったのは大きかったです。警察官を目指すきっかけは、3年生のときに警察官の親戚から『びったりだと思つよ』と言われて興味をもったことです。警察官は、『助ける』より『守る』イメージが強かったことも志望した理由のひとつです。公務員試験対策は、大学のキャリアセンターでアドバイスをもらいながら取り組みました。ラクロス部に警察官を目指している仲間がいたこともモチベーションのひとつでした。お互いに励まし合いながら頑張ることができたと思います」

——仕事について

「警察学校では、書類作成や職務質問の方法、柔道や剣道、逮捕術などを学んでいきます。厳しい訓練が多かったですが、同期と助け合いながら乗り越えることができました。事件の当事者役を教官と学生が担当して対応要領を学ぶロールプレイングが楽しかったです」



——最初の配属先は?

「交番に配属され、交通取締りや少年補導、落とし物の受理、道案内などの対応を行いました。様々な事案に対応する中で、人に見られているという意識が芽生えました。普段から見本となる行動ができるよう意識しています」

——仕事内容を簡単に教えてください。

「警察官は、市民が困ったときに頼りになる存在として、いろいろな意味で人を守る仕事だと思います。交通課では、スピード違反や一時停止違反を取り締まることで、交通違反が原因で起こる事故を減らし、歩行者の安全を守る活動をしています。交通違反者には違反することによる危険性を十分に理解してもらうため、毅然とした態度で対応することを心がけています」

——やりがい

「私たちは日々様々な事件・事故に対応しますが、ひとつひとつと親身に対応することで『ありがとう』とございました」という言葉をいただくやりのがいを感ずります。交通死亡事故が発生しなかった連続日数が伸びていくことも嬉しいですね。今後も交通事故を減らせるように頑張りたいです」

——メッセージ

「警察官になるためには、採用試験に合格する必要があります。大学では、公務員試験対策講座が開かれていたり、キャリアセンターのサポートが受けられますのでぜひ活用してください。私は、愛知県警察のイベントに参加し、そこで見た女性の白バイ隊員の姿に憧れを抱いて進路が明確になりました。大切なのは、気になったことは何事も挑戦してみることに。周りの意見に流される必要はありません。今感じている自分の気持ちや興味を大事にして欲しいです」

ありがとうございます。



分探

18歳 ↓ 部活を通し、メンタル面が鍛えられる。卒業後、愛知学院大学へ。

22歳 ↓ ラクロス部の仲間と励まし合いながら、試験対策に取り組み。警察官採用試験に合格。

26歳 ↓ 交通違反が原因で起こる事故を減らすため、毅然とした態度で日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>

